

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 13 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24320149

研究課題名(和文) 歴史認識の越境化とヨーロッパ公共圏の形成 学術交流、教科書対話、博物館、メディア

研究課題名(英文) Historical understanding across borders and formation of European public sphere: Academic exchange, textbook dialogues, museums and media

研究代表者

剣持 久木 (KENMOCHI, HISAKI)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：60288503

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、ドイツ、ポーランド、フランス各地で、歴史博物館、教科書対話そして学術交流の現状を視察し、各国から専門家を招請して、数多くのシンポジウムを開催してきた。その結果、ヨーロッパ公共圏の形成の展望とともに、現在依然存在している限界の実情も確認できた。本研究の成果は、2016年度中に公刊予定の論文集に掲載する予定である。そこでは、独仏(西山)、独ポ(吉岡)国境地域の歴史博物館、ドイツ(川喜田)とフランス(剣持)における歴史教養番組、さらには歴史娯楽教育(近藤)の分析に加えて、ドイツ、ポーランド、フランスの研究者からの寄稿も予定している。

研究成果の概要(英文)：This research project has investigated the current state of the museums of history, textbook dialogues and academic exchanges, and also organized a number of related symposiums with experts from various countries, in Germany, Poland, and France. As a result, we not only confirmed the successful formation of European public sphere, but also found its limitation that still exists. The outcome of this research will appear in the proceedings scheduled to be published during the 2016 fiscal year. It will contain papers on the museums of history of the border regions in France and Germany (by Nishiyama) as well as Germany and Poland (by Yoshioka), and also papers on the historical cultural TV program in France (by Kenmochi) and in Germany (by Kawakita). In addition to the analysis of historical entertainment education (by Kondo), contributions are also expected from the researchers in France, Germany and Poland.

研究分野：フランス現代史

キーワード：ヨーロッパ 公共圏 歴史認識 歴史教科書 歴史博物館 公共史 学術交流 歴史教育

1. 研究開始当初の背景

2007年度から2010年度まで実施した科研共同研究「歴史認識共有の実験～仏独共通歴史教科書の射程～」の過程で、歴史教科書成立の背景に存在する、歴史認識をめぐるヨーロッパ公共圏の存在に注目するようになり、教科書対話にとどまらず、学术交流、歴史博物館、さらには多様なメディアを研究する共同研究に発展した。

2. 研究の目的

本研究は、2010年度までの研究成果を踏まえ、またドイツがフランスに続いて共通教科書構想を進めつつあるポーランドも新たに視野に入れて、国境を越えた公共史 Public History の可能性と課題を実践的かつ理論的に考察することを目的としていた。

3. 研究の方法

「公共史」の構築に重要な役割を果たす回路として、(i) 学術ネットワーク、(ii) 歴史教育、(iii) 歴史博物館、(iv) メディアの歴史検証の四つを取り上げ、各回路にみられる国際協力・地域間協力のあり方、ならびに歴史認識の国際化・越境化の様相を分析する。また、対象地域としては、これまで検討してきた独仏両国に加えてポーランドも対象とすることで、「ヨーロッパ」内部の多様性、そこから生じる可能性と問題点も浮き彫りにすることができると考えた。

(i) 学術ネットワーク

ヨーロッパにおける歴史学、歴史教授法、歴史対話の国際ネットワークとして、パリやワルシャワのドイツ史研究所、ルードヴィヒスブルクの独仏研究所、ダルムシュタットのドイツ・ポーランド研究所、ヴロツワフのヴィリ・ブランドセンター、さらには研究機関であり対話のコーディネイト機関でもあるゲオルク・エッカート国際教科書研究所、ヨーロッパレベルの学术交流ネットワーク形成を支援する欧州評議会の活動等に注目した。これらの様々な交流機関の活動ならびに機能について調査・分析し、学術レベルでのヨーロッパ公共圏の形成と公共史の現況について分析した。また、後述するペロンヌ博物館のジャンジャック・ベッケールとゲルト・クルマイヒによる第一次大戦の独仏共同通史(岩波書店から剣持、西山訳で2012年刊行)の執筆に見られるように、歴史研究者の国境を越えた活動、既存の歴史記述の再検討にも注目した。

(ii) 歴史教育

仏独共通歴史教科書については、2011年夏に刊行された第三巻(古代～ナポレオン)の内容分析、全3巻完結後の現場の反応、社会での受容等を引き続き調査する。また、冷戦下の1972年に対話を開始し、その後40年近くにわたって対話を継続してきたドイツ・ポーランド間でも、2008年以来、共通教科書の製作準備が進んでおり、当初は

2011年にも、前期中等教育(中学校)向けの全3巻のうち第一巻の刊行が予定されていたが、結局本研究の期間中には刊行に至らなかったが、教科書作成に関わった専門家とは緊密な情報交換を行った。その過程で調査した状況を、仏独のケースと比較、分析した。そのほか、ヨーロッパ各国で歴史教育に携わる教員の連携を支えるNGOヨーロッパクリオの活動についても注目した。

(iii) 歴史博物館

歴史博物館、とくに現代史や軍事史の博物館は、各国のナショナリズムを直接反映した、いわば国民国家の正当化のメディアというイメージが強いが、近年、国民国家の枠をこえ、社会史の成果も取り入れた展示を行う歴史博物館が数多くみられるようになった。本研究では、以下の四つのタイプの歴史博物館を取り上げ、そこで提示される歴史像を比較検討した。

a) ヨーロッパ型: EUが主体になったヨーロッパ博物館(ブリュッセル)

b) 国家間協力型: 第一次大戦の激戦地ペロンヌ(フランス)に作られ、展示に英仏独の専門研究者が協力した戦争博物館であるペロンヌ博物館。

c) 地域型: 独仏国境地域のアルザス・モゼル博物館、ドイツ・ポーランド国境地域のシュレジエン博物館、ドイツ・デンマークの国境地域のシュレスヴィヒ・バーチャル歴史博物館(インターネット)など。

d) 国民国家型: ドイツの「歴史の家」「ドイツ歴史博物館」など。

(iv) メディアの歴史検証

映画、テレビ、雑誌等のメディアによる歴史検証が「公共圏」における歴史認識の形成に対してもつ影響力は極めて大きい。メディアでは、とりわけ記念日、記念年を中心に特定の歴史事象の検証が周期的に行なわれるが、本研究期間中には第一次世界大戦100周年記念行事が注目された。また、独仏共同テレビARTEの歴史ドキュメンタリーや、ドイツやフランスで製作された戦争の時代を背景に描かれた歴史ドラマも考察の対象とした。

4. 研究成果

(1) 2012年9月には、ドイツ・ポーランド共通教科書作成委員会のロベルト・トラバ氏からの招請で、ポーランド、マズーリ地方で開催された学会に全員で出席すると共に、トレ布林カ収容所跡およびワルシャワ蜂起博物館を視察した。10月にはパリ第7大学教授ソフィー・クーレ氏を招請し、「記憶の略奪」をテーマに一連の講演会を開催した。12月に剣持が日仏会館で開催されたシンポジウム「歴史と和解」に参加し、2013年3月には近藤が歴史学研究会主催シンポジウム「国境を超える歴史認識」で報告している。同月には、前述のトラバ氏を招請した一連のシンポジウム、ワークショップを実施し、さ

らに、アウシュビッツ博物館展示の責任者の一人、フランス国立学術研究センターのアネット・ヴィヴォルカ氏を中心に、シンポジウム「ショアーの表象」を共催した。

(2) 2013年9月には全員でポーランド、ドイツ、フランスを視察した。ポーランドでは、アウシュビッツを皮切りに、カトヴィツェ、グリヴィーツェなどシュレジエン地方を重点的に回った。とりわけドイツ・ポーランド国境地帯における公共史の現状をシロンスク大学教授カジマレク氏やシュレジエン博物館準備室長のヨドリンスキ氏との面談で聴取した。またドイツ側ゲルリッツのシュレジエン博物館も視察した。フランスでは、アネット・ヴィヴォルカ氏の案内で、ドランシー収容所記念館をはじめとするユダヤ人迫害関連施設を視察した。2013年6月には吉岡と川喜田が日本ドイツ学会シンポジウム「領土とナショナリティ」で報告者とコメントをつとめ、剣持は9月に福岡大学、2014年2月に静岡大学で開催された歴史認識シンポジウムで報告し、3月にはフランス、レンヌ第二大学の招請でエマニュエル・ドロワ准教授のセミナーで「独仏和解の射程」をテーマに報告している。西山は、ベルリンでの在外研究の環境を利用して、現地で開催された「ヨーロッパにおける記憶と歴史」をテーマにしたシンポジウムに参加し、アルザス・ロレーヌ記念館関係者とのインタビューと資料収集を行っている。

(3) 2014年度は、過去2年間の合同実地調査の成果を踏まえて、各自が個別の実地調査や研究報告を実施した。川喜田は8月末からドイツで調査を行い、ドイツ・ポーランド共通教科書の進捗状況についてポーランド学術アカデミー・ベルリン・ドイツ史研究所関係者にインタビューを行っている。近藤は9月にポーランドで開催された国際歴史教育学会で「日本における歴史教育と歴史産業」と題する報告を行っている。西山も9月にドイツ、フランスに滞在し、ストラスブール、シュトゥットガルト、ドレスデン、ベルリンなどで歴史博物館およびそれらの特別展示を視察している。また、2014年9月に始まる第一次世界大戦100周年関連行事には、全員が積極的に関与している。10月には、ペロンヌ第一次世界大戦博物館の研究所長、ステファヌ・オードワルソール氏を招いた講演会を開催し、剣持は12月に広島平和研究所で「仏独と第一次世界大戦100周年」をテーマに講演している。剣持はさらに、2015年3月にドレスデン連邦軍事史博物館とロンドン帝国戦争博物館を視察している。

(4) 最終年度の2015年は、5月に日本西洋史学会で総括シンポジウムを開催している。ここでは剣持が本研究の射程を解説し、分担者が個別報告を行った。アルザス・ロレーヌ博物館(西山)、シュレジエン博物館(吉岡)の分析、ドイツの歴史ドラマ「ジェネレーションウォーズ」の受容の分析(川喜田)

さらには歴史教育にかかわる historical edutainment の視点からの問題提起(近藤)などである。また4月にはパリ第10大学ヨーロッパ研究所のトマ・セリエ准教授を招いて一連の講演会、シンポジウムを行うと共に、「記憶の場」研究のヨーロッパレベルの展開の最前線をめぐる意見交換を行っている。さらに8月には中国、済南で開催された国際歴史学会議に剣持が参加し、第二次世界大戦史および公共史の部会で欧米の研究者と意見交換を行った。2016年2月にはデュッセルドルフ大学名誉教授ゲルト・クルマイヒ氏を招いて第一次大戦研究およびジャンヌダルク研究についてのシンポジウムを開催している。

(5) 本研究の枠内で実施された視察、各種調査、研究交流の成果に基づき、以下の考察を述べる。研究目的で掲げた、4つの公共史の回路のうち、最初の学術交流ネットワークについては、様々なテーマでの実践を確認できた。とくに「ヨーロッパの記憶の場」についての研究進展は著しく、本研究分担者の西山は、前述のトマ・セリエ氏の依頼で「ヨーロッパ・記憶の場」叢書への寄稿をすることになった。また、剣持、西山の共訳で刊行した『第一次世界大戦仏独共同通史』関連企画としては、前述のクルマイヒ氏が2016年のヴェルダン戦闘100周年を前に、フランス側の重鎮、アントワヌ・プロ氏とヴェルダンについての共同研究を公表している。2番目の歴史教育については、残念ながら停滞状況を確認した。本来なら本共同研究の期間中に刊行されるはずであったドイツ・ポーランド共通歴史教科書は、2016年6月現在、刊行に至っていない。こちらについては、本共同研究の過程で停滞の背景を詳細にフォローしている。3番目の歴史博物館については、今回の共同研究で、ペロンヌ、ドレスデン、ロンドンなどの軍事博物館の越境性を確認すると共に、それに影響されたその他の博物館展示の改良も確認できた。ただ、ドイツ・ポーランド国境地帯においては、越境性にむけた進展と共に、それに立ちはだかる壁の存在も確認した。4番目のメディアの歴史検証については、第一次世界大戦100周年関連については、独仏の対応の比較などについてその対照性を明らかにすることができた。そして、とくにドイツ、フランス国内の歴史教養メディアの展開については、今後の研究課題であることが確認された。

(6) 本共同研究の今後の展望としては、まず、これまでの研究の成果を2016年度中に出版するという目標がある。おもに2015年西洋史学会で研究分担者が報告した内容をもとに、研究代表者による公共史の射程についての序章、そしてヨーロッパでの実験がアジアの現状にむけた展望に与える影響を考察する終章を加えた内容を予定している。寄稿者には、研究分担者にくわえて、これまでの共同研究の過程で協力してきた海外の研

研究者からの寄稿を予定している。さらに、本研究は、2016年度から新たな4年間にむけて採択された「公共史の実践」科研に引き継がれる予定である。その中ではドイツ・ポーランド共通教科書の状況を今後もフォローしていくと共に、国境を超える歴史博物館や歴史教養メディアの状況についても詳細な研究を継続する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 21 件)

Takahiro Kondo, Shuei Tanaka, "Why is it Impermissible to Learn History Pleasurably?", Wojdon, Joanna (ed.), *E-teaching History*, Cambridge Scholars Publishing, 査読無し、2016年、pp. 173-188.

Akiyoshi Nishiyama, "Im fernen Osten nichts Neues? Transnationale historiografische Perspektiven im nationalistischen Ostasien", *Historie. Jahrbuch des Zentrums für Historische Forschung Berlin der polnischen Akademie der Wissenschaften*, 査読無し、no. 7, 2014, pp. 323-337.

剣持久木「ヨーロッパにおける歴史認識の越境化-学術交流、歴史教科書、博物館-」『七隈史学』査読無し、2014年、16号、77-94頁

西山暁義「ヨーロッパにおける歴史意識と博物館-アルザス・モーゼル記念館の事例-」『共立女子大学総合文化研究所紀要』査読無し、2014年、20巻、83-121頁

剣持久木「歴史認識共有の模索-東アジアとヨーロッパ-」『歴史学研究』査読無し、2013年、910号、39-43頁

西山暁義「二国間教科書の可能性と限界」『歴史学研究』査読無し、2012年、899号、52-59頁

[学会発表](計 21 件)

剣持久木、西山暁義、川喜田敦子、吉岡潤、近藤孝弘、「歴史認識の越境化と公共史-博物館、メディア、教科書」日本西洋史学会65回大会小シンポジウム、2016年5月23日、富山大学

Takahiro Kondo, Shuei Tanaka, "Delicate Relationship between History Education and the History Industry in Japan", *International Society for History Didactics*, 2014年9月8日、University Wroclawski,

Poland.

吉岡潤「戦後ポーランド領土の創造と想像-国境線移動、強制移住、引き揚げ-」日本西洋史学会64回大会、2014年6月1日、立教大学

Akiyoshi Nishiyama, "Geschichte im öffentlichen Raum", *Klaus-Zernack-Kolloquium*, 2014年、2月10日、Zentrum für historische Forschung Berlin der polnischen Akademie der Wissenschaften

近藤孝弘「多国間歴史教材の分析視点-ヨーロッパと東アジアの比較から」歴史学研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会合同シンポジウム「国境を超える歴史認識を求めて」、2013年3月3日、早稲田大学

[図書](計 9 件)

ペーター・ガイス、ギヨーム・ルカントレックドイツ・フランス共通歴史教科書【近代史】福井憲彦、近藤孝弘監訳、明石書店、2016年、389頁

吉岡潤『戦うポーランド-第二次世界大戦とポーランド-』東洋書店、85頁、2015年

西山暁義、木村靖二、千葉敏之『ドイツ史研究入門』山川出版社、488頁、2014年

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

剣持久木 (KENMOCHI HISAKI)
静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：60288503

(2)研究分担者

近藤孝弘 (KONDO TAKAHIRO)
早稲田大学・教育・総合科学学術院・教授
研究者番号：40242234

西山暁義 (NISHIYAMA AKIYOSHI)
共立女子大学・国際学部・教授
研究者番号：80348606

川喜田敦子 (KAWAKITA ATSUKO)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：80396537

吉岡潤 (YOSHIOKA JUN)
津田塾大学・学芸学部・教授
研究者番号：10349243

(3)連携研究者

()

研究者番号：